

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年5月22日 NO.16 (116)



ノイバラ (*Rosa multiflora*)

オー君 「あ！これは、ノイバラだよ。」

花ちゃん 「うわあー。オー君すごい！植物（しょくぶつ）の名前もしっかりと覚（おぼ）えたのね。」

オー君 「なんども見ていたから、おぼえちゃったんだよ。」

モンタ博士 「そうだね。なんども見ていると、自然（しぜん）に覚えてしまうものさ。

ところで、ノイバラのことを『ローザ マルチ フローラ』ともいうんだけど、知（し）っているかな。」

オー君 「え！『ローザ マルチ オフロ？』なんだそりゃ？」

モンタ博士 「ちがうよ。『ローザ マルチ フローラ』（*Rosa multiflora*）だよ。」

花ちゃん 「それって、ひょっとして『学名（がくめい）』ですか。」

モンタ博士 「お！さすが、花ちゃん。よく知っているね。感心（かんしん）感心。」

オー君 「なんだよ。『がくめい』というのは・・・？おいらにも教（おし）えてくれよ。」

花ちゃん 「植物や昆虫（こんちゅう）、動物（どうぶつ）など、あちこちいろいろな国（くに）があって、それぞれの国で名前がついているでしょ。それだと、研究（けんきゅう）したりする時に、とてもこまるので、世界共通（せかいきょうつう）の名前があるの。それを学名というのですね。モンタ博士！」

モンタ博士 「おどろいたね。よく知っているね。その通りだよ。ノイバラというのは、日本の名前なので、『和名（わめい）』ともいうけどね、学名では、『ローザ マルチ フローラ』というのさ。ほかに、方言名（ほうげんめい）とか、俗名（そくめい）とかいうのもあるんだ。」

花ちゃん 「方言名？俗名？・・・わたし、知らないですけど・・・。」

モンタ博士 「方言名とは、それぞれの地方（ちほう）でのよび名なんだ。ヒガンバナには、マンジュシャゲとかハミズハナミズなど、1023個も方言名があるんだよ。また、ヒメジョオンやハルジオンのことをビンボウグサとかいうけど、それは俗名といって、一般的（いっぱんてき）に言われている名前なのさ。」

オー君 「へえー。そういうことなんですか。ところで、さっきの『ローザ マルチ オフロ』じゃなかった『ローザ マルチ フローラ』っていう英語には、どんな意味（いみ）があるのですか。」

モンタ博士 「ローザとは、ローズというあざやかな色という意味で、マルチはたくさん、フローラとは花ということさ。それから、学名は、英語ではなくて、ラテン語なんだよ。』

オー君 「え！ラテン語？なんだそりゃ？」

モンタ博士 「昔の言葉で、今では使われていない言葉なんだ。どうしてかということ、説明が難しくなるからカットするけどね。まあ、和名といっしょに学名も覚えちゃいな。校長室に『植物学ラテン語辞典』があるから見せてもらうといいよ。」

花ちゃん 「かしてくれるのですか。今度（こんど）ぜひ、見させて下さい。」

モンタ博士 「OK。おまけのお話だけど、カブトムシは、*Allomyrina dichotoma linnaeus*（アロミリナ チコトーマ リンネウス）。アゲハチョウは、*Papilio xuthus linnaeus*（パピリオ クスウス リンネウス）というんだよ。」